

2020 ジュニア委員会特別企画

ジュニア委員会 委員長 加藤 正

2020年はコロナウィルス感染症の拡大を受けて、3月以降のジュニア選手権、小学・中学・高校生大会と、主要なジュニア大会が軒並み順延→中止となり、さらに学校の休校要請や、その後の外出自粛要請を受け公営テニス場も閉鎖されるなどして、学校やテニスクラブにおけるテニスの練習さえもできない状況となりました。

その後、スポーツ庁を始め、県の教育庁等の段階的自粛緩和、そして公営テニス施設の条件付き使用開始、さらに、8月以降千葉県教育庁競技力向上対象事業(大会や練習会)の開催が条件付き(コロナ対策)で可能となりました。そこで、ジュニア委員会では、選手たちが練習に励む状況や国・県の方針を踏まえ、6月以降独自のコロナ対策ガイドラインを作成し、備品や消耗品を購入し、準備を積み重ね、8月より強化練習会やジュニアテニス大会の開催をスタートさせることができました。

また、文科省(スポーツ庁)からは本年の高校3年生を中心に最後の大会やイベントに参加できるよう開催の要請と補助制度の創設がありました。これを受け、現場でのコロナ対策運営マニュアルを作成した上で、FYSカップ(最終学年生大会)は国の補助対象大会として、Graduation Cupは他の夏のジュニア大会と併設する形で開催しました。

なお、これらの大会では、事務局及び運営スタッフが総力を挙げてコロナ対策に取り組み、その結果、一人の感染者も出さずに無事大会を終了させることができました。

大会責任者を始め、すべてのスタッフに深く感謝いたします。

特別企画 Graduation Cup 開催において

ジュニア委員会 行事部会長 大山弘幸

新型コロナウイルスの影響で3月から開催される予定の各大会はすべて中止になり、高校3年生が成果を試す場を提供できないかと考え、特別企画 Graduation Cup の開催となりました。

当初の予定では、ワンデーターナメントで4日間の予定でしたが、夏休みが短縮となった影響もあり、定員の1/4程度(34名)の参加者となりました。複数日に参加の選手もあり、ラウンドロビン方式をとったこともあって、たくさん試合ができて満足してもらえたようでした。参加者全員に抽選で賞品を提供できたことも良かったと思います。インターハイは高校3年生にとって最後の大会で、予選敗退してしまうとそのまま引退となってしまいます。十分にテニスができ満足して卒業できるように新たな企画を検討していきたいと思います。

千葉県ジュニア FYS カップ 2020 を開催して

ジュニア委員会 強化部会長 木本 知

新型コロナ パンデミックにより、あらゆるトーナメントが自粛・延期となり、最終学年の生徒にとっては日頃の練習の成果を発揮する機会がないまま競技活動を終了しなければならない事態になっていました。その選手達の為に次に進む機会を与えたいということが今回の主旨でした。当日は可能な限りの感染予防対策を行い、皆様のご協力のおかげで問題なく終わることができました。それぞれが熱い戦いを繰り広げ、久しぶりの大会を楽しんでいた様子がとても印象に残りました。参加いただいた選手、ご理解いただいた保護者の方々に厚く御礼申し上げます。テニスはあらゆるスポーツの中で最も感染する可能性が低いスポーツだと思われていますが、これからの with コロナの時代にどのような形で大会を開催していくべきか課題は山積です。今後も選手のためにできることを模索し、いずれ戻れる平時に向けて取り組んでまいります。



高3男子シングルス

優勝 鉄矢朝大(ルネサンス鷹之台 TC) 右から2人目
準優勝 田島宝人(松原 TC 印西) 右から3人目



高3女子シングルス

優勝 渡邊夏緒(ルネサンス鷹之台 TC) 右から2人目
準優勝 佐藤由依(東京学館船橋高) 左から2人目



密を避けた選手ミーティング



スタッフは、フェイスシールド・マスク・手袋を着用